

平成28年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録（実名入り）

【日 時】 平成28年10月17日 午後2時00分～3時30分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [元トヨタ生活協同組合 特別顧問]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
澤田 恵美子 [元豊田市消費者グループ連絡会会長]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]

〈事務局〉

原田 裕保 [豊田市産業部長]
寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]
三浦 浩 [豊田市産業部商業観光課課長]
疋田 一男 [豊田市産業部商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市産業部商業観光課担当長]
鳶 和典 [豊田市産業部商業観光課主査]
成瀬 愛 [豊田市産業部商業観光課主事]

【欠席者】 大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 商店街活性化計画の見直しについて
- 5 報告案件
 - (1) 商業振興委員会 現地視察について

【会議録（要約）】

- 1 部長あいさつ
産業部原田部長よりあいさつ

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局より説明

3 委員長あいさつ
尾碕委員長よりあいさつ

4 議事
(1) 商店街活性化計画の見直しについて
事務局から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

この見直しをすると何が良くなるのか。

事務局

商業観光課職員が事業申請により補助金交付しているが、これから市の予算が減っていく中で、より適切な事業とするために、自己評価と中間報告を入れて見直しをかけていきたい。

委員

もう一つの視点で、公的な施策として、商業活性化のあるべき姿との整合性はどうか判断していくのか。

事務局

4年に1回の計画更新時に判断していく。

中間評価で見直した事業の成果を受けて、さらに翌年度見直し、あるいは、新たな計画を作るというサイクルに変えていきたい。

委員

もう少しイメージの共有化ができないと、単発の事案ごとに良いか悪いかだけの話になる。商業活性化のあるべき姿ときちんと合っているか、その辺の整合性を含めた議論が無いといけないと思うが、考えはあるのか。

事務局

市の計画を理解した上で計画を作成いただくためにも、個別で、市の方向性を伝えていきたい。ただし、市の計画と活性化計画の整合についての議論ができていないので、本日のご意見を踏まえて、今後検討していく。

委員

市の商業施策にあわせて商店街も目標を持って計画を作っていくが、商店街の10年、20年先が全く読めない時代になっている。市の施策に直接つながる事業だけではなく、イベントをきっかけに個店にお客さんを呼ぶことも必要。また、個店のレベルを向上させていく事業も行っていきたい。

3月末まで事業がある場合は、中間報告の前に次年度事業予算が決定しているため、2年目で大きな見直しをするのは難しいと思う。その場合は、3年目から事業をしっかりと見直していく方が良い。

来街者の交通手段、来街者の来街に要する時間の項目について、店によって商圏が違うので、どの業種を基準とするか判断が難しい。近況の歩行者交通量と売上の増減率については、売上を出すのは抵抗がある方が多いので、去年よりもどれくらい増えたかというアンケートなら集計が取れると思う。

事務局

来街者の項目については、一般的にこういう方が多いかなという主観的な判断が良い。

事務局

事業計画を進めていくには、来街者についての項目も必要であると前回ご意見頂き、追加した。

委員

全員共通で同じ方向に向かうというのはなかなか難しい。夏祭りなど一過性のイベントでも、補助金が無ければできない。そういうものでも、少しでも効果があるのでは。少しずつでも進歩があれば、長年やってきて良かったと思えることもあると思う。

委員

店主の高齢化や後継者問題がある中で、どう個店が頑張るか、また商店街全体としては新しいお店に入ってもらうことも大事。

後継者問題はどの時点を考えるのか。

委員

商店自体があまり変わらない。事業者の自己評価だけではなく、消費者の評価も何らかの形で要るのでは。

事務局

消費者は、その商店街の中に無い業種がほしいと言われるが、空き店舗がないなど、商店街としては消費者ニーズに対応できない項目がたくさんある。それが結果的に何も変わってないように見える部分もあると思う。結局は、商店街の売上の増減が消費者の評価を表しているのかなと思う。

委員

お店を作ってほしいわけではなく、各個店の意識を深めてもらうため、全体的な意見ではなく、各個店に対する消費者の評価も必要ではないかなと思う。

委員

商店街がこれから生き残っていくにはやはり個店が強くなるといけない。店主が地域の人たちに、支持されるような店づくりが必要。結局それをやらない店はどんどん淘汰されている。商店街としての機能を果たしていくために、重点的に人材育成を行いたい。

委員

活性化計画を物差しとして、経済変動や消費者の好みの変化にあわせて変更していくことになるだろう。

また、個店に対しての消費者の評価があってもいい。全国で活性化している商店街は、3%ぐらいしかない。豊田市独自の商業活性化ということで、商店を育成していくのであれば、それなりの方向性を出していかないと厳しいし、商店街組織を考える上でも、個店の力を伸ばすことは重要。

今後、人口増加に向けて定住対策をしていけば、商業の底上げにもなる。

事務局

政策的な視点をもって個別計画がどうあるべきかよく話し合いながら、進めていきたい。また消費者の意見をどう捉えて進めるのかも意識して、調整をしていく。後継者問題は、継続的な組織運営の中でも、大事な視点である。計画を進める中で、どうあるべきか検討する。

5 報告案件

- (1) 商業振興委員会 現地視察について
事務局から資料について説明